

トピックス 総会に初めて出席しました

さる6月21日（金）に開催された日本健康太極拳協会第14回総会に初めて出席いたしました。今回は中野完二先生が副理事長や広報・機関誌委員長などの現役から退かれる節目の総会なので、思い立ってとくに出席したものです。なかなか活発な質疑応答があり出席の皆さんの熱意が感じられる総会でした。

終了後の懇親会にも出席して、楊進理事長、楊慧副理事長、中野完二先生ご夫妻はじめ多くの先生方ともお話しすることが出来まして、出席してたいへんよかったですと思います。

8月17日(土)に北地域交流会を開催

北地域の各教室が一堂に会して交流する会が下記のとおり計画されましたのでご案内いたします。

日時； 8月17日(土) 12時から14時30分まで

場所； 墨田区総合体育館 武道場 【錦糸町駅北口より徒歩3分・錦糸公園内】

参加費； 東京都支部会員は無料（非会員は500円）

締切； 7月20日

閑人閑話 映画「グランドマスター(一代宗師)」を観る

久しぶりにチャンツィイー*が出演する中国武術映画「グランドマスター(一代宗師)」を観てきました。主役は香港の俳優として人気絶頂のトニーレオン（梁朝偉）【写真右】、ブルースリーの師匠として知られる詠春拳の宗師「葉問」^{イップマン}を演じて、47歳にして初めてのカンフー映画とは思えない切れのある拳技を披露しています。チャンツィイー扮する「宮若梅」^{ゴンルオメイ}の、復讐、悲恋、人生の蹉跎などを絡ませて、日中戦争から新中国誕生のころまでの激動の時代背景のもとで描いたもので、彼女の、華麗でかつすさまじい格闘シーンも満喫することが出来ました。日中戦争とその後の共産党革命に翻弄された「葉問」^{イップマン}一族の悲劇も淡々と描かれています。



監督ウォンカーウアイは中国の南と北の風土の違い(のみならず、文化の違いや拳法の違い、言葉の違いまでをも)を際立たせる素晴らしいカメラワークで、たとえば、広東の夜の豪雨のなかで「葉問」^{イップマン}が十数人を次々に倒してゆく壮絶な格闘場面、また大晦日の深夜の奉天駅ホームでの「宮若梅」^{ゴンルオメイ}と父の敵「馬三」^{かたき マーサン}との雪を蹴散らさすの決闘シーン【写真左】とか、カンフー映画の醍醐味を存分に味わうことが出来ました。

ただ、「宮若梅」^{ゴンルオメイ}の父「宮宝森」^{ゴンバオセン}が北方武術である形意拳と八卦掌を束ねる地位にいて、かつ南方各流派との交流をはかるというテーマ自体がやや特殊であることもあり、また、登場人物も実在の著名な武術家と誰とは特定しにくい人物とが入り混じって登場してくること、あるいは時代背景が必ずしも十分に描かれていないこともあり、やや難解で、若い人にはちょっと受けないのではないかと思います。そのせいか館内も予想以上に空いていました。(私の太極拳のお仲間の一人も同様な感想を漏らしていました。)



映画鑑賞後 700 円で購入したパンフレットにはそれを見越してか、いろいろと有益な記事が載っていました。たとえば、松田隆智氏(中国武術研究家)の「中国拳法—その歴史と戦法—」とか、岡崎由美氏(早稲田大学文学部教授)の「中国の歴史における武術文化の変遷」とか、宇田川幸洋氏(映画評論家)の「精神性をこめた“クンフー”別次元の空間」とか、たいへんためになる?面白い記事ばかりでしたので、私にとってはとてもお値打ちなパンフレットでした。

***注**; チャンツイイー(章子怡) 1977 年北京生まれ、34 歳。北京の中央戯劇学院卒。1996 年 19 歳で映画デビュー。1999 年チャンイーモウ監督の「初恋の来た道」で注目され、2000 年「グリーンデスティニー」の可憐にしてすさまじい拳法演技で一躍脚光を浴びる。その後ハリウッドにも進出してアジアを代表する名女優としての地歩を固める。現国籍は香港。イスラエル人の大富豪のパートナーとニューヨークに住む。

左顧右眄 (73) 【第15話 楊名時師家の名語録をひもとく】

その3 五和貴(ごわき) (1984年1月 第24号)

今回は 1984 年の新念の挨拶として掲載された「五和貴」の概要をご紹介しますこととしました。

『…… 「以和為貴——和をもって貴しとなす。」これは有名な聖徳太子制定の十七条憲法の冒頭に出てくる言葉で、聖徳太子が治国の根本としたものである。私も大好きな言葉である。

聖徳太子は、和の精神を基とし、儒・仏の思想を調和し、君臣の道及び諸人の^{のつと}るべき道徳を示した、という。

太極拳の場合も、特に、指導者には、和を貴ぶということを大事にしていきたいと願っているが、それには具体的に自分で自分をチェックすることが出来るようにしないとイケないのではないかと思います、五つのチェックポイントを掲げた。「和貴」の上に「五」を加え、「五和貴」としたい。五は数えやすい。いわきとも読める。福島県にいわき市があることも後で知らされた。

- ① 目——目が和にかなっているかどうか。目が柔和かどうか。
- ② 顔——和顔である。顔が柔和かどうか。和気あいあいとした雰囲気があるか。やさしく柔和な顔つきは人々に好感を与え、慰めを与える。
- ③ 言(口)——言葉遣いは穏やかかどうか。言い方によっては人を傷つけ、人を慰める。
- ④ 体——体の和がとれているか。腰を中心に足、手の指先など体全体のバランスがとれているかどうか。背骨をまっすぐにのばして、肩、肘の力を抜いて、全身りきまずにいるか。
- ⑤ 心——心が豊かであってはじめて目、顔もやさしくなるのだが、最初から「心」を挙げたのではなかなかむずかしくなるので、最後に掲げる。せんじつめれば心に帰する。他人様の、仲間の健康と幸せを祈ること。より多くの健康な、幸せな人がいることで、また自分が支えられる。

これらは、あるお寺の老師の言葉からヒントを得て考えてみた。日々、こういうふうにしなみながら稽古してゆくことによって、その積み重ねによって、自分を完成していくこと。これは仏教の修行とも相通じるものがある。……』 いかにも、師家のあの穏やかなお人柄がしのばれる一文です。

旅をうたい拳を詠む 水無月のころ

孫自慢の時代は過ぎてクラス会病気の話で盛り上がるいま
直下型近しの報にもひるむなく首都圏の地価上りゆくらし
落ちし実を集めて煮れば厨房に杏のジャムの香りひろがる

きじばと おなが は
雉鳩とムクドリ尾長が遊びゐてアジサイも咲くわが街は愛し

公園の子供らの声 10 階の我が居に届く初夏の夕暮れ